

## 8020サポーターアンケート調査結果 資料

### 一人平均現在歯数

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	29.1	28.5	27.7	26.1	23.3	18.6	10.9
女	28.9	28.4	28	25.8	22.5	17.7	10.2
2000年	28.8	28.3	26.6	23.6	20.3	15.1	10.6
2005年	28.6	28.3	27	24.7	20.9	16.5	13.4

### 噛むことに満足していますか

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男 満足	80.0%	72.8%	72.8%	58.6%	58.4%	52.7%	37.6%
女 満足	79.0%	73.0%	66.5%	63.7%	60.0%	54.4%	44.0%
2000年	78.5%	71.3%	68.9%	62.3%	60.8%	59.0%	52.5%
2005年	72.8%	71.0%	61.6%	56.4%	59.0%	60.6%	59.0%

### かかりつけ歯科医を持つ人の割合

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	52.2%	61.7%	71.9%	77.8%	87.4%	90.8%	87.1%
女	63.7%	80.6%	85.9%	88.1%	95.1%	93.1%	89.3%
2000年							81.7%
2005年							87.2%

### 8020運動を知っている人

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	38.9%	58.3%	65.0%	55.6%	58.7%	56.8%	40.0%
女	54.0%	71.7%	80.3%	72.8%	77.4%	56.7%	41.7%
2000年							51.8%
2005年							54.7%

### 喫煙と歯周病の関係を知る人

	20歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
男	67.8%	64.1%	58.1%	57.7%	48.7%	44.9%	43.5%
女	79.0%	75.3%	68.4%	65.4%	57.0%	51.0%	56.0%
2000年							50.4%
2005年							63.3%

## 8020サポーターアンケート

### 家族や友人に歯の健康について話をしたか？

はい	94.3%
いいえ	5.7%

### 何人に話をしましたか

1～4人	77
5～9人	147
10～19人	124
20～29人	52
30～49人	32
50人以上	33

### 健康祭など歯科関係のイベントに参加したか

はい	52.8%
いいえ	47.2%

## 特別講演

座長 田村 康夫 教授

### 2. 新たな歯周治療と歯周組織研究を求めて

朝日大学歯学部 口腔感染医学講座 歯周病学分野  
渋谷 俊昭 先生

歯周治療はこの20年で大きな変化をしてきました。歯周外科は切除療法から再生療法へ、歯科インプラントの応用、審美的歯周形成外科療法の試みなど枚挙に遑がありません。この時代のおかげで種々の最先端治療法に刺激され、積極的に試みることができました。組織再生誘導法、エムドゲインによる歯周組織再生法、最新の成長因子 FGF を用いた再生法についてその術式や経過、予後について報告します。また歯周組織の審美的改善を目的とした歯周形成外科療法としての各種術式の紹介を行います。さらに包括的歯科治療としての MTM やインプラント治療の応用についても紹介します。

近年、歯周病の原因にリスクファクターという概念が定着しつつあります。リスクファクターとしての喫煙や糖尿病、全身性疾患の関与について症例や基礎的研究を報告します。

基礎研究においては歯周病罹患患者の免疫学的変化について当時最先端のフローサイトメトリーを用いて、患者の抹消血中のリンパ球サブセットの分析を試み一連の報告を行いました。さらに歯周病原性細菌と免疫細胞サブセットの変動を抹消血リンパ球、免疫組織化学、ELISA での抗体価を検討し細菌種により免疫反応に差異があることを報告しました。免疫組織化学的手法により当時困難であった歯周組織中の細胞間マトリックス成分であるグリコサミノグリカンの局在の証明に成功しました。また酵素免疫測定法を応用し、歯肉溝滲出液中のグリコサミノグリカンの炎症時の変動や骨代謝マーカーの変動を報告しました。骨代謝に注目し、トロント大学では骨吸収に関与する破骨

細胞活性の活性に及ぼす細胞外 pH の検討を行いました。帰国後には細胞外マトリックスの共通の分解酵素である TIMPs の破骨細胞に対する影響を報告しました。また破骨細胞の吸収活性を可及的に標準化するためにガラススライド上にリン酸カルシウムをコーティングした測定材料を開発しました。生体親和性の高い人口骨材料（リン酸カルシウム材）の開発において破骨細胞、骨芽細胞などの細胞活性への影響を検討しました。さらに破骨細胞に対して近年骨粗鬆症の治療薬

として注目されているビスフォスフォネートに注目し、歯周炎やインプラント周囲炎における歯槽骨吸収が抑制されることを報告しました。現在は歯槽骨再生へのヒアルロン酸や FGF の応用を検討しています。

今後は、エビデンスに基づいた臨床体系を構築しなければならないと考えています。より臨床に即した研究分野あるいは臨床を視野に入れた基礎研究を重視しようと考えています。皆様の御指導、御鞭撻によりさらに有益な研究を進めて行きたいと考えています。